

「県立川崎図書館に関するアンケート」単純集計結果 分析

【分析の視点】

神奈川県立川崎図書館の利用者の状況や傾向を把握。

1 回答者について

1) 性別

- 「男性」157人（71.7%）、「女性」52人（23.7%）となり、2018年と比較して男性の割合が約3ポイント増加して、女性の割合が約5ポイント減少しました。（第13表・第30図）

2) 年代

- 「19歳以下」が41人（18.7%）と最も多く、「20代」が19人（8.7%）で最も少なくなりました。（第14表・第31図）
- 移転前（2016年）と比較して2018年、2019年と19歳以下の割合が多いことから、この傾向は移転によるものと考えられます。（第14表・第31図）
- 2018年と比較して「30代」の割合は約6ポイント増加しました。（第14表・第31図）
- 男女別にみると、女性は38.5%が19歳以下ですが、男性は40代から60代が53.5%となり、女性は若年層が多く、男性は中高年層が多いと言えます。これは2018年と同様の傾向です。（第14表・第32図）

3) 職業

- KSP内在勤を含めると「会社員・公務員」が89人（40.6%）と最も多く、次点は「学生」46人（21.0%）となりました。2018年と同様の傾向です。（第15表・第33図）
- 「会社員・公務員」の割合は2018年と比べてほとんど変化していません。（第15表）
- 男性の47.1%が「会社員・公務員」（KSP内在勤を含む）となり、女性の42.3%が「学生」です。（第15表・第34図）
- 男女の回答率の差が倍以上あった項目は、「会社員・公務員」（男性41.4%、女性19.2%）、「自営業」（男性8.9%、女性1.9%）、「派遣社員」（男性0.6%、女性0%）、「パート・アルバイト」（男性2.5%、女性7.7%）、「専業主婦・専業主夫」（男性0%、女性9.6%）、「無職」（男性19.7%、女性3.8%）、学生（男性14.6%、女性42.3%）です。（第15表・第34図）

4) 住所

- 県内在住者が全体の85.4%です。県内の内訳では川崎市在住者が全体の71.7%となり、県立川崎図書館所在地の高津区在住者は全体の41.6%です。2018年と比較して県内在住者は約3ポイント増加し、川崎市在住者は約7ポイント増加しました。（第16表・第35図）
- 男女の回答率の差が倍以上あった項目は、「（他県）その他」（男性1.9%、女性5.8%）、

「無回答」（男性 2.5%、女性 0%）です。（第 16 表・第 36 図）

2 利用頻度について

- 利用頻度は「月に数回」（48.4%）が最も多く、この傾向は 2018 年と同様です。（第 1 表・第 1 図・第 2 図）
- 2018 年と比較して「今日初めて」は約 7 ポイント減少しました。（第 1 表・第 1 図・第 2 図）
- 男女の回答率の差が倍以上あった項目は、「ほぼ毎日」（男性 3.8%、女性 0%）、「今日初めて」（男性 9.6%、女性 21.2%）です。（第 1 表・第 3 図）

3 来館目的について

- 「個人的な利用（趣味・自習）」（65.8%）が最も多く、この傾向は 2018 年と同様です。（第 2 表・第 4 図・第 5 図）
- 「仕事上の利用」（25.6%）は 2018 年から約 5 ポイント増加しました。（第 2 表・第 4 図・第 5 図）
- 利用しているコンテンツでは「専門書」（27.9%）が最も多く、「専門誌・学会誌・新聞」（13.2%）、「社史」（5.0%）、「電子ジャーナル・データベース」（4.6%）と続いています。（第 2 表・第 4 図）
- 利用しているサービスでは「座席の利用（自習・休憩）」（19.2%）が最も多く、「展示・講座」（1.4%）、「調査・相談」（0.9%）と続いています。（第 2 表・第 4 図）
- 男女の選択率の差が倍以上あった項目は、「仕事上の利用」（男性 28.0%、女性 13.5%）、「専門誌・学会誌・新聞の利用」（男性 16.6%、女性 3.8%）、「電子ジャーナル・データベースの利用」（男性 5.1%、女性 1.9%）、「産業安全・労働衛生ビデオ・DVD の利用」（男性 1.3%、女性 0%）、「調査・相談」（男性 0.6%、女性 1.9%）、「展示・講座」（男性 1.9%、女性 0%）です。（第 2 表・第 6 図）

4 県立川崎図書館の選択理由について

- 「静かな環境だから」（50.7%）が最も多く選択されました。男性の 49.7%、女性の 61.5% が選択しており男女の選択率に差が見られました。（第 3 表・第 9 図）
- 「専門的な資料があるから」（48.9%）は 2 番目に多く選択されました。男性の 51.6%、女性の 36.5% が選択しており男女の選択率に差が見られました。（第 3 表・第 9 図）
- 3 番目に多く選択された項目は 2019 年に新たに加えた「家から近いから」（47.5%）です。一方「その他」は 2018 年から 2019 年で 26.2 ポイント減少しています。2018 年の「その他」には「家から近いから」のような内容が多く含まれていた可能性があります。（第 3 表・第 7 図・第 8 図）

5 利用場所について

- 「個別閲覧席（キャレル席）」（38.8%）、「書架（専門図書）」（28.3%）、「書架（専門誌・学会誌）」（20.1%）が主に選択されています。（第 4 表・第 10 図）
- 回答者の選択が 1 割未満だった場所は「書架（社史）」（6.8%）、「書架（特許・規格）」

(5.0%)、「電子ジャーナル・データベース席」(3.2%)、「カンファレンスルーム」(2.7%)、「ディスカッションルーム」(2.7%)、「書架(ものづくり入門)」(2.3%)、「ものづくりギャラリー(展示)」(1.4%)、「知財スポット」(0.9%)です。なお、調査期間中に講演会は開催されていません。実施されていた企画展示は「「はやぶさ2」の技術～ものづくり情報ライブラリーの資料から～」です。(第4表・第10図)

- 男女の選択率の差が倍以上あった項目は、「書架(ものづくり入門)」(男性1.3%、女性5.8%)、「電子ジャーナル・データベース席」(男性3.8%、女性1.9%)、「知財スポット」(男性1.3%、女性0%)です。(第4表・第11図)
- 書架で最も多く利用されていた資料の種類は「専門図書」(28.3%)で、2番目は「専門誌・学会誌」(20.1%)です。その他「特許・規格」「社史」「ものづくり入門」の選択率は2.3%から6.8%の間です。2018年と比べて「専門図書」は10ポイント増加し、「専門誌・学会誌」は約7ポイント増加しました。その他の資料の種類も数ポイントの増加が見られます。資料の種類ごとに項目を独立させたことによる影響の可能性がります。(第4表・第10図)
- 書架で利用されていた資料の種類について、男女の選択率の差が倍以上あった項目は「ものづくり入門」(男性1.3%、女性5.8%)です。(第4表・第11図)

6 利用時間について

- 「3～4時間」(32.9%)が最も多く、「1時間以内」(31.1%)、「1～2時間」(19.6%)と続きます。(第5表)
- 男女の選択率の差が倍以上あった項目はありません。(第5表・第13図)
- 2018年と比べて「3～4時間」は約11ポイント増加しました。(第5表)
- 傾向として2018年は「1時間以内」のみがピークでしたが、2019年は「1時間以内」と「3～4時間」の2箇所にはピークがあります。利用者が長期滞在する層とそれ以外の層に分かれてきていると考えられます。(第5表・第13図・第14図)

7 利用の成果(アウトカム)について

- 選択率の上位4項目は、「研究や調べものが進んだ」(37.4%)、「知識・教養が深まった」(34.2%)、「仕事に役立った」(24.2%)、「余暇を有意義に過ごせた」(22.4%)です。このことは「ものづくり技術を支える機能」に特化した専門図書館としての役割を果せていると考えられます。特に「研究や調べものが進んだ」は2018年と比べて約8ポイント増加しており、調査・研究用途での役割を十分に果たせるようになってきています。(第6表)
- 男性に最も多く選択された項目は「研究や調べものが進んだ」(40.1%)で、女性に最も多く選択された項目は「知識・教養が深まった」(34.6%)です。(第6表・第15図)

8 満足度について

- 「全般的に見た県立川崎図書館の満足度」について
- 「満足」(71.1%)となっており、2018年の(64.3%)から約7ポイント増加しました。「どちらかといえば満足」(26.5%)を合計すると97.6%となります。2018年の「満

足」「どちらかといえば満足」の合計は 94.7%で、2019 年は約 3 ポイント増加しました。中央値も 4 を示しており、利用された方は現状に満足している傾向にあります。
(第 7 表・第 17 図)

➤ 「資料やサービスについての満足度」について

- 「満足」が最も多く選択された項目は「施設・設備」(74.3%)です。「どちらかといえば満足」(22.8%)との合計でも最も満足度の高い項目でした。この傾向は 2018 年と同様です。次点は「職員の対応」(満足:72.2%、どちらかといえば満足:19.0%)です。
(第 10 表・第 18 図)
- 上記以外で「満足」と「どちらかといえば満足」の合計が 7 割を超えた項目は、「開館日・開館時間」(83.6%)、「図書」(74.3%)の 2 項目です。(第 10 表・第 18 図)
- 「満足」と「どちらかといえば満足」の合計が 5 割未満の項目は、「電子ジャーナル・データベース」(48.4%)、「産業安全・労働衛生ビデオ・DVD」(34.4%)の 2 項目です。(第 10 表・第 18 図)
- 「満足」と「どちらかといえば満足」の選択率が低い項目を見ると、必ずしも「不満」と「どちらかといえば不満」の選択率が高いわけではありません。それよりも「わからない」の選択率が高い傾向(50%前後から 60%前後)にあります。満足度の低い項目は、認知度が低い、または利用経験がないため評価できないことを表していると考えられます。(第 10 表・第 18 図)
- 「わからない」が 5 割を超えた項目は「産業安全・労働衛生ビデオ・DVD」(64.0%)のみです。(第 10 表・第 18 図)
- 「不満」が最も多く選択された項目は「開館日・開館時間」(3.4%)です。「どちらかといえば不満」(13.0%)との合計でも最も不満の高い項目でした。2018 年の「開館日・開館時間」は「不満」が 7.3%、「どちらかといえば不満」が 8.8%で、「不満」「どちらかといえば不満」の合計での傾向は 2019 年も変わりませんでした。次点は「図書」です。(第 10 表・第 18 図)
- 「満足」と「どちらかといえば満足」の合計が 7 割を超えた 2 項目(「開館日・開館時間」「図書」)は、「不満」と「どちらかといえば不満」の合計も高い項目で、12%以上を示していました。(第 10 表・第 18 図)
- 「満足」の選択率はすべての項目で女性が高い。「不満」の選択率は 9 項目中 3 項目(「図書」「専門誌・学会誌・新聞」「職員の対応」)で女性が高く、男性の方が高いのは「施設・設備」「開館日・開館時間」でした。(第 11 表・第 12 表・第 19 図・第 20 図)
- 男性の回答の中央値は、3 が 5 項目、4 が 4 項目でした。男性において「満足」が 5 割を超えた項目は、「職員の対応」(70.8%)、「施設・設備」(69.5%)の 2 項目です。(第 11 表・第 19 図)
- 女性の回答の中央値は、4 が 9 項目でした。女性において「満足」が 5 割を超えた項目は、「施設・設備」(88.2%)、「職員の対応」(76.0%)、「開館日・開館時間」(54.9%)、「図書」(52.0%)の 4 項目です。(第 12 表・第 20 図)